

【佳 作】

きれいな水を守るために

宮城県仙台二華中学校

二年 中 なか 川 がわ 修 しゅう 一 いち

きれいな水があるということがどれほど素晴らしいことか考えたことはあるだろうか。現在の日本の水道普及率は九十八パーセントとなっており、普通に生活を送る分には不自由を感じることはないだろう。そのため、多くの人はきれいな水がどれほど貴重なものか気付いていないだろう。

僕は今年の五月に、総合学習の一環で北上川の河口の干潟へフィールドワークに行った。そこで行った活動の中に、五十センチメートル四方の土を十センチメートルほど掘り、中にいる生き物を記録するというものがあった。その時に観察することができた生き物の数は僕の想像を遥かに超えていて、とても驚いた。またこのフィールドワークでは、他にもヨシと呼ばれる植物の観察、移植など多数の活動を行った。これらの活動はとても楽しく、印象に残るものだった。もしも川の水が汚かったら、これほど多くの生き物が生息していることはなく、これらの活動もできていなかっただろう。きれいな水があるということは、生き物や生態系だけでなく、自分たち人間にとっても有益なことなのである。

人間の手にかければ簡単に川を汚すことができちゃう。高度経済成長期の日本の川の写真を見たことはあるだろうか。排水が川に大量に流されたことにより、水は濁り、泡が浮いている。川の水質汚濁が問題となり、中には産業排水に含まれる化学物質による公害が問題になったところもある。水俣病やイタイイタイ病がこれらの例として挙げられる。これらの公害の影響により、産業排水には排出規制がかけられるなどの対策が施されている。ところが、生活排水には大きな対策がされていない。しかし、近年の水質悪化の原因の五から七割は生活排水だといわれている。そのた

め、これからは水質汚濁を防ぐための生活排水の対策が大切になると考えられる。

生活排水の中でも台所から出る排水には、食べ物のカスや油などが含まれていて、特に汚いとされている。台所から出る排水に含まれる汚れの中でも油は特に厄介な汚れで、牛乳や味噌汁など一ミリリットルを魚が住める水質にするためには数リットルの水しか使わないのに対し、天ぷら油（サラダ油など）一ミリリットルを魚が住める水質にするには約三百リットルもの水が必要になるのだ。したがって、僕はなるべく油を下水に流さないようにすることが、最も効率的な水質汚濁対策だと考えた。

例えばフライパンなどの調理器具に付着した油分をキッチンペーパーなどでふき取ってから洗うのはどうだろうか。一回ではあまり変化はないかもしれない。しかし、このような対策をとり、週に一ミリリットル下水に流す油の量を減らすという生活を一年間続けることができれば、合計五十ミリリットル流す油の量を減らすことができる。そして、日本に住む約一億二千万人もの人々全員が同じような生活を送ることができれば、合計で約六十二億ミリリットル、つまり六百二十万リットルも流す油の量を減らすことができるのだ。

「きれいな水」があることは、人間を含む多くの生物にたくさんのメリットがある。しかし、たった一人の些細な行動で、あっという間に水は汚れ、たくさんの生き物に多くの被害が出てしまう。「きれいな水」を守るために、一人一人がこの問題の当事者だという自覚を持ち、小さな努力を積み重ねていく必要があると思う。